

高尾ひとみ 令和8年7月度特別作品

春から夏へ 高尾ひとみ

北は日本海、南は宍道湖に臨む島根半島の初夏。そこへ行く途中の県境には、まだまだ春の山が連なり、淡い色から濃い色までさまざまな緑に彩られて、見ている飽きることがなかった。一方、宍道湖の水の美しさ、村々の畑や花は、初夏の明るさとエネルギーに満ちていた。海岸は砂岩層と泥岩層が織りなす縞模様の荒磯、山肌には巨大な断層。荒々しい自然は、瀬戸内を見慣れた目にはとても新鮮だった。島根半島の山は椎の花の真つ盛りだったが、帰りのバスであらためて見ると、広島の山に椎の花は咲いていなかった。

山々に春の名残や県さかひ

鳴きながら高さへ雲雀消えゆけり

夏の日に水底透くる宍道湖かな

芍薬の秋鹿とふよき名の里に

言問へば草取の手を止めくれし

唄りたての玉葱土間にあいの風

磯鶴荒磯に立てば鳴きわたる

細き路地くぐり漁村の夏つばめ

鳩の笛わたりて池の静まれり

九十九折下れば椎の花香る

《作品鑑賞》

雲雀

山陽と山陰との往復の車中で充分に季節の移ろいの違いを感じられたですね。作品の中から作者の自然への視点の鋭さを感じました。

私も温泉地の多い山陰へは、仕事や旅行で度々訪れましたが、十句を拝読し、もっと自然への視点に深めれば良かったと悔やまれます。華やかな春から夏にかけての季節の移行はあっという間で、勢いがあり動植物の活動が盛んですね。この季節の山陰路を私も一緒にさせて頂いたような気がしました。

芍薬の秋鹿とふよき名の里に

風光明媚な秋鹿という素敵な地名にお似合いの芍薬の花の美しさが際立っていたことでしょう。秋鹿と言う名のお酒も有るようですね。

言問へば草取の手を止めくれし

旅の中では土地の人との交流があれば一層味わいが深まりますね。島根の人のゆったりとした暮らしぶりが感じられます。

磯鶴荒磯に立てば鳴きわたる

夏の到来を待っていたかのように勢いよく鳴いている磯鶴、海岸の岩場に私も立っている気分になります。

九十九折下れば椎の花香る

新緑の中に淡い黄色の長い穂状の花が山肌を黄色に染めていたことでしょう。